

1 単元名 I Have a Dream 将来の夢を伝えよう

2 単元について

本学年の子どもたちは、1学期は「自分のことを知ってもらおう」、2学期には「まちの自慢を紹介しよう」という単元において、英語での発表活動に取り組んできた。それぞれの活動において、発表の目的に合わせた伝え方を考えながらよりよい発表の仕方を試行錯誤してきた。友達の発表を見たり自らの発表の仕方をビデオで確認したりしながら、聞く人をひきつけるような声の大きさや表情の明るさ、聞く人の理解を助けるようなジェスチャーなどの大切さに気づき、グループや個人で何度も練習を重ねた。また、流動的に組まれるペアで互いに伝え合う場合、学級全体に伝える場合、話される内容についてのほとんどが初めて知ることだという相手に伝える場合など、それぞれ伝える際に留意することが少しずつ異なることを実感しながら伝える様子も見られるようになってきた。一方で、子どもたちは緩急、強弱、抑揚、間などといったものについては気がつくことができなかった。そこで、2学期末には実際の英語スピーチをいくつか視聴し、そのうち一つを選んで真似てみるという活動を行った。何度も繰り返し聴いたり観たりしながら話すという活動を通し、子どもたちはそれまでには出会わなかったような様々な表現の仕方を実感し、体得していった。

本単元では、そうした経験を生かし、自分の将来の夢について伝え合う。まず、世界の子どもたちがもっている夢に触れる活動や世界の偉人について知る活動を通し、自分の将来の姿を思い描く。そして、I want to .... などの表現を使い、就きたい職業やなりたい姿について語ることを目指す。その際には、スピーチの形式をとり、Martin Luther King の “I have a dream.” のスピーチを視聴しながら2学期末に経験したスピーチの特徴を思い出し、それらを生かすことを意識させたい。

本学年の児童は、2学期、図画工作の活動において「未来のわたし」を思い描き粘土を用いた立体作品を製作している。その際には、明確に就きたいと思っている職業を明細に表した子もいれば、「世界中を旅する私」「好きなことをしてのんびり過ごす僕」を表すなど、将来何をしたいかということが明確ではない子もいた。様々な世界の偉人について知ることや世界の同世代の子どもたちが自分の夢を語る様子に触れること、友達の憧れの人について聞くことなどを通して自らの将来についての視点や考えを広げたり、自身の得意なことや興味を見つめそれらを起点としたりしながら、自信をもって自分の思い描く夢について語れるようにしたい。

3 学習指導計画(8時間目/全10時間)

第1次 世界の偉人について知り、自分の憧れの人について紹介し合う。…3時間

第2次 将来の夢を伝えるための表現に慣れ親しむ。…3時間

第3次 ポイントを生かしながら自分の将来の夢についてスピーチする。…本時2/4時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい スピーチのポイントを生かし、自分の将来の夢スピーチに向けて練習する。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 将来の夢やその理由を伝えるための表現を練習する。 I want to .... I can .... I'm good at .... I like .... 2 スピーチの際のポイントを確認する。 聴衆を見ながら話す/堂々と話す/強調したい言葉や部分を強く、高く、ゆっくり話し、それ以外の部分は弱く低く話す/ジェスチャーを効果的に用いる などといったポイントを確認する。 3 スピーチの練習をする。	・再度“I have a dream.”のスピーチを視聴し、ポイントを想起させる。  ・動画を撮りながら練習させる。

□授業後の話し合い(外国語協議会)で話題にしたいこと

子どもたちが自信をもって将来の夢について語ろうとしていたか。また、そのための手立てについて。